健康危機発生時における保健所設置自治体や保健所の組織体制並びに人材育成等の強化、及びブロックごとのDHEAT体制強化のための研究

研究代表者　池田　和功（和歌山県岩出保健所　所長）
分担研究者　石井 安彦（北海道釧路保健所 所長）、武智　浩之（群馬県健康福祉部健康感染症・疾病対策課　課長）、小倉　憲一（富山県厚生部医務課　課長）、大木元　繁（徳島県三好保健所　所長）、服部　希世子（熊本県有明保健所　所長）、市川　学（芝浦工業大学システム理工学部　　教授）、冨尾　淳（国立保健医療科学院健康危機管理研究部　部長）

要旨　前研究班で実施したブロック訓練を基に、DHEAT連携訓練のひな形を作成した。このたたき台を九州ブロックおよび東海北陸ブロックで試行し改良を加えた。このひな形を基に、広島県用の訓練資料を作成し、訓練を実施して検証した結果、ひな形はDHEATブロック訓練の企画運営に有用であることが分かった。
また、災害時の保健・医療・福祉及び防災分野の情報集約及び対応体制における連携推進のための研究（研究代表者：尾島俊之）と共同で、保健医療福祉調整本部の設置・運営の際に押さえておきたいポイントについて検討し、平時と危機時の保健医療調整本部チェックリストを作成した。解説も含めて小冊子「保健医療福祉調整本部等におけるマネジメントの進め方」に記載する。

A．目的

ブロック単位でのモデル的訓練を全国に展開し、実務的対応力の底上げを図り、訓練の検証等から各自治体やブロックにおける実効性のある本部体制とDHEAT連携体制の構築に資する知見を集め対応体制の強化を図ることを目的とする。

また、令和6年能登半島地震におけるDHEAT活動について、活動の実態と課題を、質問紙調査等を用いて多角的に検証することも目的とする。

B．方法

九州ブロック、東海北陸ブロック、および広島県で、訓練用ひな型を用いた訓練を実施、検証する。これにより、ひな形の使いやすさ、有効性を向上させ、訓練ひな形を完成させる。

研究の軸となる下記の5項目について、分担研究者を中心に検討する。
①保健医療福祉調整本部等の組織体制および統括DHEATの役割に係る検討、②地方ブロック内でのDHEAT連携体制に関する検討、③DMAT等支援チームとの連携に係る検討、④情報支援システムの活用に係る検討、⑤DHEAT応援要請・派遣調整に係る基準や方法の検討

令和6年能登半島地震におけるDHEAT活動について、DHEAT、支援チームを対象に質問紙調査を実施し、被災自治体職員を対象にインタビュー調査を行う。

C．結果

九州ブロック、東海北陸ブロック、および広島県でDHEAT訓練を実施した。前研究班で実施したブロック訓練を基に、訓練ひな形のたたき台を作成し、九州ブロックおよび東海北陸ブロックで試行しつつ改良を加えた。このひな形を基に広島県用の資料を作成し、訓練を実施して検証した結果、ひな形は訓練の企画運営に有用であることが分かった。

災害時の保健・医療・福祉及び防災分野の情報集約及び対応体制における連携推進のための研究（研究代表者：尾島俊之）と共同で、保健医療福祉調整本部の設置・運営の際に押さえておきたいポイントについて検討し、平時と危機時の保健医療調整本部チェ

ックリストを作成、解説も含めて小冊子「保健医療福祉調整本部等におけるマネジメントの進め方」に記載する。

DHEAT 派遣調整方法について検討し、DHEAT 応援要請の目安（案）と DHEAT 派遣調整の考えかた（案）を作成した。

能登半島地震における DHEAT 活動の課題を整理し検証を行う。DHEAT リーダー調査、DHEAT 構成員調査、DHEAT 派遣元調査の３つの調査票を作成し、年度内にアンケート調査を実施する見込みである。能登半島地震における受援自治体等を対象に、年度内にインタビュー調査を実施する見込みでる。

D．考察

3か所の訓練にブロック訓練用ひな型を提供できた。ひな形をもとに訓練が企画され、資料作成が行われた。当日は、ひな形のアクションカードを使用し、活動のヒントになった。運営者からは、ひな形が企画、実施に役立ったという意見や改善点をいただき、ひな形を修正することで精度を高めた。ひな形の検証や助言のため、班員が訓練に参加した。班員はブロック協議会の幹事長はじめ、DHEATに関わる者が多く、ひな形を使った訓練に参加した経験が、来年度以降のブロック訓練の推進に役立つと考えている。

保健医療福祉調整本部は、都道府県により組織や運営方法が異なるが、基本的な考え方や備えておくべきことなど共通点も多い。平時と危機時の保健医療調整本部チェックリストは、保健医療調整本部の設置運営に際して、押さえておくべきことを、抜けることなく確認できる便利なツールである。平時からチェックリストを使って、保健医療調整本部の設置準備をしておくことが大切である。

DHEAT 応援要請の目安（案）は、支援自治体が DHEAT 派遣の準備を始める目安、また、被災自治体が DHEAT を要請する目安となっている。DMAT と同様に発災後早い時期から DHEAT も支援したほうが良いという意見があり、この目安を使うことでスピーディーな派遣につながると考えている。DHEAT 派遣調整の考えかた（案）は、関係者が連携した段階的な調整方法について記載している。平時から DHEAT 地方ブロック協議会内での連携、また、全国協議会や DHEAT 事務局との連携が深まることにより、被災状況や被災自治体に適した DHEAT 派遣ができると考えている。

E．結論

3 つの DHEAT 訓練に訓練ひな型を提供し、ひな形の使用感、効果、改善点等について検証した。平時と危機時の保健医療調整本部チェックリスト、および、DHEAT 応援要請の目安（案）と DHEAT 派遣調整の考えかた（案）を作成した。

F．今後の計画

引き続き、DHEAT 地方ブロック協議会に訓練ひな型を提供し、地方ブロック訓練を支援することで、全ブロックの訓練実施を目指す。

能登半島地震における DHEAT 活動の課題を整理し検証を行い、その結果をもとに今後の DHEAT 活動の改善に資する。

G．発表

１．論文発表

なし

２．学会発表

なし

R7.2.18 地域保健総合推進事業 発表会

令和６年度　健康危機発生時における保健所設置自治体や保健所の組織体制並びに人材育成等の強化、及びブロックごとのDHEAT体制強化のための研究

池田　和功（和歌山県岩出保健所）

目的：

ブロック単位でのモデル的訓練を全国に展開し、実務的対応力の底上げを図り、訓練の検証等から各自治体やブロックにおける実効性のある本部体制とDHEAT連携体制の構築に資する知見を集め対応体制の強化を図ることを目的とする。

また、令和６年能登半島地震におけるDHEAT活動について、活動の実態と課題を、質問紙調査等を用いて多角的に検証することも目的とする。

地方ブロックで実施した２つの実証訓練

1. 保健医療福祉調整本部と被災地保健所での現地本部立ち上げとブロック内から複数のDHEAT応援派遣を想定した実証訓練

   R6.9.6 長崎県　九州ブロック訓練

   R6.10.21/22 富山県　東海北陸ブロック訓練

２．DMAT地方ブロック実動訓練と連携した保健医療福祉調整本部・DHEATとDMAT調整本部との連携に係る実証訓練

   R6.11.30 広島県　DMAT訓練との合同によるDHEAT訓練

⇒服部班で実施したブロック訓練を基に、訓練ひな形のたたき台を作成し、九州ブロックおよび東海北陸ブロックで試行しつつ改良を加えた。このひな形を基に広島県用の資料を作成し、訓練を実施して検証した結果、ひな形は訓練の企画運営に有用であることが分かった。

訓練ひな形

事前準備資料

・実施要領

・資料 作業手順

・資料 参加者名簿

・資料 進行表

・市川先生への被害想定資料作成依頼について

当日資料

・資料1 R〇 DHEATブロック訓練（説明資料）

・資料2 ファシリから渡す資料

・資料2-1 スライド作成用様式集

・資料3 イベントカード

・資料4 アクションカード

・資料5 現地本部現状分析と課題

・参考１ 災害業務自己点検簡易チェックシート

・参考2 DHEAT受付票など様式

・参考3 DHEAT活動日報

・アンケート調査（服部先生作成）

九州ブロック訓練
DHEAT会議

東海北陸ブロック訓練
中部厚生センター

広島県訓練
DMAT訓練と合同

DHEATブロック訓練　実施のポイント

1、DHEATを知ってもらう
2、市町村の訓練参加
3、亜急性期の訓練でも初動対応を入れたほうが良い
4、訓練の被災想定
5、余裕を持った訓練スペースの確保
6、被災地の本部では、ほぼ全員がパソコンを使って活動
7、データ共有システムに慣れておく
8、組織図を明示しておく
9、HeLP-SCREAM
10、DMATなど支援チームとの連携
11、本庁保健医療福祉調整本部　支援DHEATの役割
12、本庁と保健所で活動するDHEAT間の連絡を密にする
13、保健医療福祉調整本部会議とDHEAT連絡会議
14、対応策の検討
15、報告様式
16、DHEATの質の評価　ファシリテーターの指導方針
17、各都道府県での訓練

研究の軸となる５項目の分担研究

①保健医療福祉調整本部等の組織体制および統括DHEATの役割に係る検討（石井、武智、冨尾）

⇒「災害時の保健・医療・福祉及び防災分野の情報集約及び対応体制における連携推進のための研究（研究代表者：尾島俊之）」と共同で、保健医療福祉調整本部の設置・運営の際に押さえておきたいポイントについて検討し、「平時と危機時の保健医療調整本部チェックリスト」を作成、解説も含めて小冊子「保健医療福祉調整本部等におけるマネジメントの進め方」に記載する。

⇒

平時と危機時の保健医療福祉調整本部チェックリスト

1. 構造（ストラクチャー）	
a. 前段階	
	保健医療福祉調整本部について、**規程類**が整備されている（計画、要綱等）。
	目的が明確化されている。
	組織図により指揮調整体制・所掌事項が明確化されている（本部長、本部員構成・統括DHEAT、統括DHEAT補佐、構成員（関係課室等）、事務局等）。
b. 基盤整備	
	本部室等のスペースが確保されている（本部会議用の部屋、休憩・仮眠室等を含む）。
	必要な**資機材**が確保されている（活動、職員の生存、安全衛生に必要なもの等）。
	情報通信システム等により必要な機能が使えるようになっている（通信手段を含む）。
	公的及び民間の関係機関等の**連絡先リスト**が整備されている。
	地域の**地図**が整備され、**平時の状況の把握**が行われている（人口分布、施設、地域資源等）。
	実践的な**研修・訓練**が行われている。
c. 安全衛生	
	活動の**安全衛生**のための対策がとられるようになっている（安全衛生担当者等）。
2. 過程（プロセス）	
a. 本部運営	
	危機発生時に速やかに**本部設置**が行われる（災害対策本部設置に連動など）。
	一定のサイクルで、**本部会議**等が効率的効果的に開催されている。
	目的、**戦略**の大局的な方針のもと、状況に応じた**目標**、**戦術**が決められている。
	情報収集、**状況認識**、**意思決定**、**実施**のループを回す。
	記録がとられている（経時記録（クロノロ）を含む）。
	リスクコミュニケーションが進められている（情報発信・広報を含む）。
	平時移行に向けて段階的に縮小され、**本部解散**が行われる。
	随時の振り返りと**事後レビュー**
b. 本部機能	
	保健医療福祉活動チームの派遣調整が進められている（受援を含む）。
	保健医療福祉活動に関する**情報連携**の仕組みが確保されている（対象（保健医療福祉調整本部、災害対策本部、保健所、市町村、関係機関、保健医療福祉活動チーム、国等）、手段（会議の開催、通信手段の確保、情報通信システムの活用）、エリアの配置、連絡窓口の設置等）。
	保健医療福祉活動に係る**情報の整理及び分析**とそれに基づく意思決定が進められている。
3. 結果（アウトプット）	
	本部内、庁内、関係機関との**連携**が図られている。
	被災者に必要な**支援の提供**が進められている（避難所・在宅・施設、災害時要配慮者を含む）。
4. 成果（アウトカム）	
	被災者の**生命・健康・生活・安心**の確保が推進されている。

＊構造、過程、結果、成果は互いに重なり合うため、分類が便宜的なものである。平時から実施すべきことの上に、危機時に実施すべきことが重なってくる。
＊各項目（各段階）、各（構成要素）内容は例示であり、必要なものについての補足がなされます。

②地方ブロック内でのDHEAT連携体制に関する検討

（小倉、大木元、冨尾、城間）

東海北陸ブロック訓練

・各県の派遣DHEATは県庁と保健所、市町（保健福祉部）に分かれてDHEAT先遣隊などとしてCSCAを念頭に活動

・富山県保健医療福祉調整本部には、本部長と統括DHEATを支援するDHEATと、地域に派遣したDHEATを支援するDHEAT（仮称：DHEAT調整本部）に役割を明確に分担

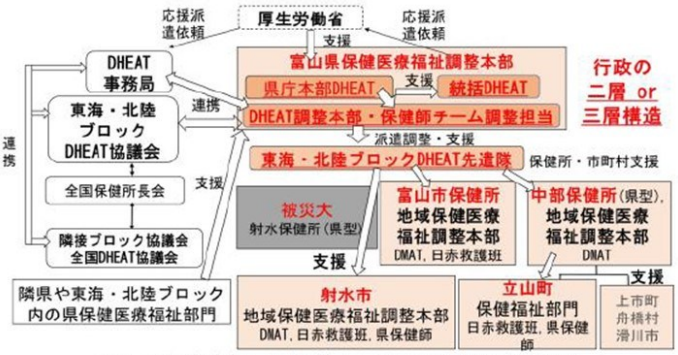


図1. R6年度東海・北陸ブロックDHEAT実働訓練組織図

③DMAT等支援チームとの連携に係る検討

（服部、高岡）

・目的

九州ブロックDHEAT 訓練及び東海・北陸ブロックDHEAT 訓練におけるアンケート調査結果をもとに、DMAT とDHEAT の連携に関する成果と課題について検討する。

・主な成果

DMAT 調整本部から各保健所本部等へのDMAT リエゾン派遣が行われ、派遣されたDMAT が保健所本部要員およびDHEAT との情報交換や相談を行った。

・DMAT が積極的に情報提供や助言を行い、活動をサポートする場面もあった。

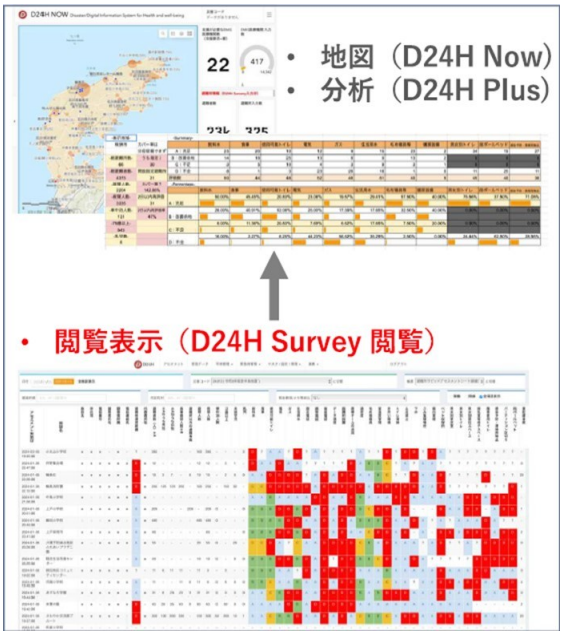
・DMAT と本部要員又はDHEAT が同じフロアで活動することにより、合同打ち合わせ等が容易とった。

・主な課題

一部ではDMAT と直接関わる機会が少なかったことから、連携を実践的に深める機会が不足していた部分があった。

④情報支援システムの活用に係る検討（市川）

・3か所の訓練に、被災想定資料を提供され、また、保健所現状報告システム、D24Hを使用した。



⑤DHEAT応援要請・派遣調整に係る基準や方法の検討（武智、高岡）

・DHEAT派遣調整方法について検討し、DHEAT応援要請の目安（案）とDHEAT派遣調整の考えかた（案）を作成した。

DHEAT応援要請の目安（案）

● 前提状況として、
1. 本庁に災害対策本部が立ち上がっている。
2. 県内DHEATの応援要請がなされている。
（補足）
① 被災都道府県が所属する地方ブロックDHEAT協議会の自治体（幹事長県）は、この前提状況の把握に努める。
② 前提状況が整っていると確認した場合は、応援要請がなされることを想定し地方ブロック内DHEAT協議会の自治体はDHEAT派遣の準備を行うことに努めるよう、地方ブロックDHEAT協議会の自治体（幹事長県）が周知する。

● **被災都道府県からのDHEAT応援要請**
1. 本庁に保健医療福祉調整本部が立ち上がっている。
2. 本庁の保健医療福祉調整本部にDMATが入ることが決定した。
（補足）
① 本庁の保健医療福祉調整本部にDMATが入る決定と同時にDHEAT応援要請を決定することが望まれる。
② 応援要請の決定にあたっては、厚生労働省健康・生活衛生局健康課地域保健室に事前に相談する。

能登地震検証について（冨尾）

・能登半島地震におけるDHEAT活動の課題を整理し検証を行う。DHEATリーダー調査、DHEAT構成員調査、DHEAT派遣元調査の３つの調査票を作成し、年度内にアンケート調査を実施する。

・能登半島地震における受援自治体等を対象に、年度内にインタビュー調査を実施する見込みでる。